令和７年度（2025 年度）第４次枚方市子ども読書活動推進計画進捗状況

Ⅰ　第４次枚方市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

１　基本目標

読書が子どもの「生きる力」の育成に効果的であることを踏まえ、すべての子どもが読書習慣を身に付け、より多くの本を自発的かつ継続的に読むようになるよう、家庭・学校・地域が連携・協働して、発達段階に応じた子ども読書活動の環境づくりに取り組みます。

２　基本方針

基本目標を踏まえ、子どもの生活の場である家庭、地域、学校と、それらの場すべてに関わる図書館の取組について、以下のとおり基本方針を定めて、子どもの発達段階に応じた読書活動を推進します。

基本方針１　家庭における子ども読書活動の推進
基本方針２　地域における子ども読書活動の推進
基本方針３　学校における子ども読書活動の推進
基本方針４　図書館における子ども読書活動の推進

３　成果指標

	成果項目	めざす成果（指標）	
		小学生	中学生
1	１日のうち、全く読書をしない子どもを減少させる	24.0％　＊ （小学６年生）	37.4％　＊ （中学３年生）
2	１週間に１冊以上本を読む子どもを増加させる	80％以上（小学５年生）	50％以上（中学２年生）

＊これまでの全国学力・学習状況調査において、本市では「１日のうち、全く読書をしない子ども」の比率が小学生・中学生とも全国平均値を上回る状況がずっと続いています。全国平均値を下回る数値まで下げるためには、相当な努力が必要です。したがって、めざすべき成果として、令和３年度(2021 年度)調査の全国平均の比率を目指す成果（指標）とします。

Ⅱ　第４次枚方市子ども読書活動推進計画の位置付け、計画期間、計画の対象

１　計画の位置付け

本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第９条第２項の規定によるとともに、関連法令、国・大阪府の子ども読書活動の推進に関する計画、枚方市総合計画、枚方市教育大綱、枚方市教育振興基本計画、第２期枚方市子ども・子育て支援事業計画、枚方市立図書館第４次グランドビジョンのほか、市、教育委員会の関連計画を踏まえて策定するものです。

２　計画期間

令和４年度（2022 年度）から令和８年度（2026 年度）までの５年間を計画期間とします。

３　計画の対象

子どもの読書活動の推進に関する法律第２条の規定により、計画の対象とする子どもはおおむね 18 歳以下とします。

Ⅲ　令和７年度（2025 年度）の進捗状況

基本方針１　家庭における子ども読書活動の推進

１　具体的施策

・　家庭での読書活動推進

２　主な取組（参考資料Ｐ１）

■　プレママ・プレパパや乳幼児の保護者を対象とした絵本読み聞かせ講座

・　野の花文庫・野の花乳幼児るーむを主宰する岩出景子さんを講師に招き、「親子であそぼう！小さい人と楽しむ絵本とわらべうた」を開催（参加人数：26 人）。

■　乳幼児の保護者対象読み聞かせ推奨パンフレット配布

・　「ねえ、よんで！」改訂版の配布を継続した（図書館窓口、４か月児健康診査時）。



「親子であそぼう！小さい人と楽しむ絵本とわらべうた」の様子



読み聞かせ推奨パンフレット「ねえ、よんで！」

■　図書館利用の推進

・　「子ども読書の日」の４月 23 日に合わせて分室で「家読（うちどく）ノート」を配布。

・　図書館で借りた本の書名などを印字できる読書履歴記帳機の設置、通帳型冊子「ひらかたブックダイアリー」の配布を全分室でも開始し、すでに導入済みの中央図書館、全分館を含めて市内全域で利用できるようにした。乳幼児期の読み聞かせの記録を含めて読書の履歴が貯まることで読書に対するモチベーション向上、子どもの不読率の低下につながる取組のひとつとして実施。

基本方針２　地域における子ども読書活動の推進

１　具体的施策

・　保健センターによる読書活動推進
・　保育所・認定こども園・幼稚園等による読書活動推進
・　子育て支援団体による読書活動推進
・　留守家庭児童会室による読書活動推進
・　地域のボランティア等による読書活動推進

２　主な取組（参考資料Ｐ１～Ｐ２）

■　母子保健事業における読書活動の推進

・　まるっとこどもセンターと市立図書館の相互連携で、図書館を利用しない層にもアプローチを図る取組のひとつとして、乳幼児健康診査時に市駅前図書館の職員がおはなし会を実施し、乳幼児や保護者に対する働きかけを行った。（１歳６か月児健診 開催回数：40 回　参加人数：2,325 人）（２歳６か月児歯科健診 開催回数：39 回　参加人数：2,203 人）
・　４か月健診時には、読み聞かせ推奨パンフレット「ねえ、よんで！」と、通帳型冊子「ひらかたブックダイアリー」を配付(配付数：2,149 部)。

■　保育所・認定こども園・幼稚園等による読書活動推進

・　１歳の誕生月の子どもを対象に保育所（園）等で読み聞かせを行い、絵本を１冊プレゼントする「枚方版ブックスタート」を市内 55 か所の保育所(園)等で実施した(参加人数:1,936 人／参加率 83%)。

■　地域のボランティア等による読書活動の推進

・　市内在住・在学の中学生、高校生、大学生による、絵本のよみかたりや折り紙、塗り絵などを通じて、子どもと触れ合う活動を行うボランティアグループ「枚方よみかたりキャラバン隊」によるイベントを実施した。（参加人数:８人）また、食育カーニバル（参加人数:80 人)、子どもいきいき広場（参加人数:30 人)、枚方公園青少年センター主催イベント(青年祭)（参加人数:311 人）に参加し、子どもたちにイベントのテーマにあった絵本のよみかたりなどを行った。



「枚方よみかたりキャラバン隊」の募集チラシ


イベント(５月開催)の様子

・　市立図書館から地域のボランティア等への団体貸出冊数が昨年度より約 2,000 冊増え、約 38,000 冊となり、市内各地で子どもへの読み聞かせ等の活動が活発に行われた。

基本方針３　学校における子ども読書活動の推進

１　具体的施策

・　児童・生徒の読書活動推進
・　学校図書館の充実

２　主な取組（参考資料Ｐ３）

■　学校図書館の充実

・　学校図書館の蔵書については、継続的に学習に必要な蔵書の充実、情報の更新に伴う除籍・買い替えなどの蔵書の充実を図った。
・　児童期における読書活動の大切さを鑑み、学校司書の配置を、中学校区を中心とした配置（中学校 19 校・小学校 20 校）から、小学校への全校配置（小学校 44 校）に移行した。また、授業等における学校図書館の活用の充実を図り、子どもの情報活用能力の向上につなげた。
・　小中学校に配置された学校司書のスキルアップを目的として、学校司書連絡会において実務研修を実施した。

基本方針４　図書館における子ども読書活動の推進

１　具体的施策

・　環境整備
・　広報の推進
・　子ども向け行事の充実
・　子どもの読書活動および学習活動の発表の場づくり
・　おすすめ本の紹介
・　読書バリアフリーの推進
・　保護者等への普及啓発
・　地域との連携
・　市民との協働
・　学校図書館との連携
・　職員の人材育成

２　主な取組（参考資料Ｐ４～Ｐ８）

■　環境整備

・　電子図書館の資料充実として、複数人が同時に閲覧できる児童書の読み放題コンテンツを 562 タイトルから 685 タイトルに増やした。
・　児童書の 18 歳以下の電子書籍閲覧数が、約 151,000 件（令和６年度（2024 年度）実績）から約 159,000 件に増加した。

■　**広報の推進**

・　電子図書館の利用促進のＰＲの回数を増やすなどの取組を行った。

・　インスタグラムで図書館の開催行事や特集展示、おすすめの本の紹介を行った。

■　**子ども向け行事の充実**

・　「子ども読書の日」の４月 23 日から、こどもの読書週間に合わせて「ひらかた絵本まつり」を実施し、市内各図書館でおはなし会スペシャルやスタンプラリー、工作体験などを開催した（参加人数：4,028 人）。

・　年齢に応じた定例の各種おはなし会の実施では、参加人数が約 3,600 人（令和６年度（2024 年度）実績）から約 3,800 人に増加した。乳幼児対象のおはなし会では、参加人数が約 1,600 人（令和６年度（2024 年度）実績）から約 1,800 人に増加した。

■　子どもの主体性を重視した体験型の催しの実施

・　市内在住・在学の小学５年生から中学３年生までを対象に、「子ども司書連続講座　めざせ！ジュニアライブラリアン」を開催した。受講生は、窓口業務や読み聞かせなど図書館司書の仕事を体験した（開催回数：２回、参加延人数：16 人）。



「ひらかた絵本まつり」のポスター

8月5日(火)	開講式	オリエンテーション
	レッスン1	中央図書館を探検しよう 司書ってどんな仕事をするの
	レッスン2	図書館ってどんなところ？
	レッスン3	おはなし会を体験しよう
	レッスン4	本のラベル貼りやコーティングをしよう
8月6日(水)	レッスン5	窓口の仕事を体験しよう
	レッスン6	レファレンス体験 テーマにあわせて本を探してみよう
	レッスン7	本のポップ(紹介文)を作って おすすめ本のコーナーを作ろう
	閉講式	認定証書授与式

「子ども司書連続講座」のプログラム

■　子どもの読書活動および学習活動の発表の場づくり

・　中学生の調べ学習コンクールを開催（作品展示：11 月８日～12 月４日、出展作品数：166 点）。

■　おすすめ本の紹介

・　各種ブックリストの作成・配布、インスタグラムでの発信を行った。中高生向けのブックリストはひらかたブックダイアリーに挟み込み、市立中学・高校に配付した。

■　読書バリアフリーの推進

・　点字付き絵本や拡大図書など、バリアフリーに配慮した資料を展示する、りんごの棚[1]を常設展示。

[1] スウェーデンの図書館が全ての子どもたちに本を届けるためのサービスとして始めたもの。言語障害のある子どもたちのために作ったりんごのおもちゃがその由来となっている。

・　読書のバリアフリー体験イベント（点字体験・立体コピー体験 参加人数：25 人）、手話で楽しむおはなし会（参加延人数：75 人）、関西外国語大学の留学生による多言語で楽しむおはなし会（参加延人数：29 人）を開催した。多言語で楽しむおはなし会の会場には、市内外の図書館から集めた多言語の資料で図書展示を行った。



バリアフリー体験イベント開催時のりんごの棚



「多言語で楽しむおはなし会」の様子（英語と日本語で読み聞かせ）

■　地域との連携

・　保育所、保育園、認定こども園・幼稚園、留守家庭児童会室、その他の子ども関係の施設に団体貸出を行った。

■　市民との協働

・　野の花文庫・野の花乳幼児るーむを主宰する岩出景子さんを講師に招き、乳幼児対象おはなしボランティア養成講座を開催。新たに２組のボランティアグループが結成された（開催回数：３回、
・　参加延人数：69 人）。
・　読書活動推進ボランティアの交流会を開催し、ボランティア養成講座の受講生も参加した（参加団体：７団体、参加人数：17 人 そのうちボランティア養成講座受講生 11 人）。
・　ボランティアによる地域でのおはなし会の開催回数が約 230 回（令和６年度（2024 年度）実績）から約 250 回、参加人数が約 2,200 人（令和６年度（2024 年度）実績）から約 2,700 人に増加した。





「乳幼児対象おはなしボランティア養成講座」の様子

■　学校図書館への支援

・　市立図書館が学校図書館をバックアップする機能として、調べ学習に活用できる図書の充実を図った。調べ学習等に活用する資料の団体貸出回数（受付件数）は 510 件（令和６年度（2024 年度）実績）から 655 件、貸出冊数は 8,816 冊（令和６年度（2024 年度）実績）から 9,352 冊に増加した。

■　職員の人材育成

・　大阪国際児童文学振興財団 総括専門員の土居安子さんを講師に招き、職場研修「子どもたちへの児童書の紹介方法を学ぶ」を行った。研修で学んだ POP や紹介文作成の工夫を、館内の特集展示やブックリスト作成時に役立てている。

・　中央図書館で開催される学校司書連絡会において、学校図書館で活用された本の情報交換や学校図書館での取組事例を発表することにより、スキルアップを図った。

令和７年度（2025 年度）の総括と今後の取組

□　令和７年度（2025 年度）の総括

・　令和７年度（2025 年度）から学校司書の配置を、中学校を中心とした配置から、全 44 小学校への配置に移行し、学校図書館の環境整備や児童への読書支援、授業での活用を進めた。また、学校司書連絡会や研修を通じて取組や課題を共有し、学校図書館の充実を図った。

・　まるっとこどもセンターと連携し、乳幼児期からの読み聞かせや本の紹介を行うとともに、ブックリストの配布やおはなし会、読書週間の取組などを通じて、子どもが本に親しむ機会の充実を図った。

・　学齢期の子どもに対しては、中学生の調べ学習コンクールや子ども司書連続講座、学校への団体貸出などを実施して主体的な学びや体験を支援した。また、ひらかた電子図書館のコンテンツ充実や SNS による情報発信など、多様な方法で本と出会える環境づくりを進めた。

□　今後の取組

・　まるっとこどもセンターと連携し、健診や各種講座、イベント等を活用した本の紹介や読み聞かせを進め、乳幼児期から子どもの成長に応じて本に親しむ機会の充実を図る。

・　小学校への学校司書の配置を活かし、学校図書館の環境整備や児童への読書支援、授業での活用を進める。また、学校教育部と連携し、学校のニーズに応じた支援の充実を図る。

・　ブックリストや特集展示、ひらかた電子図書館、SNS 等を活用し、子どもの興味・関心に応じた本との出会いを促すとともに、家庭・学校・地域・市立図書館が連携し、読書習慣の定着につながる環境づくりを進める。